

地域で語り継がれる津波経験 (大楽毛地区編)

平成21年3月

釧路市大楽毛地区防災推進協議会
国土交通省国土技術政策総合研究所
河川研究部海岸研究室

この資料について

- この資料は、釧路市大楽毛地区防災推進協議会と国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部海岸研究室が平成20年11月～平成21年2月に開催した「津波からの避難に関する座談会」においてまとめられたものです。
- この資料は、記憶が薄れつつある過去の津波の経験をまとめ、地域の方々に広く知っていただくことにより、予想されている500年間隔地震などに対する防災意識を高めることを目的として作成されました。
- この資料に掲載されている絵は、座談会での体験談に基づくものです。
- 500年間隔地震では、過去の地震を大きく上回る津波が予想されており、この資料より津波の高さや動きは大きくなります。
- この資料を用いて行う一切の行為について、この資料の制作者は何ら責任を負うものではありません。

(参考)戦後に発生した釧路の主な地震

- ・昭和27年3月4日 十勝沖地震

集合煙突の倒壊とズリ山崩壊により15人が死亡。釧路港は高さ1.5mの津波に襲われ、多数の人が避難する。

- ・昭和35年5月25日 チリ地震

津波で釧路港などの漁船が損壊し、住宅浸水などの被害を受ける。

- ・平成5年1月15日 釧路沖地震

震度6の揺れにより、釧路市で死者1人、負傷439人。

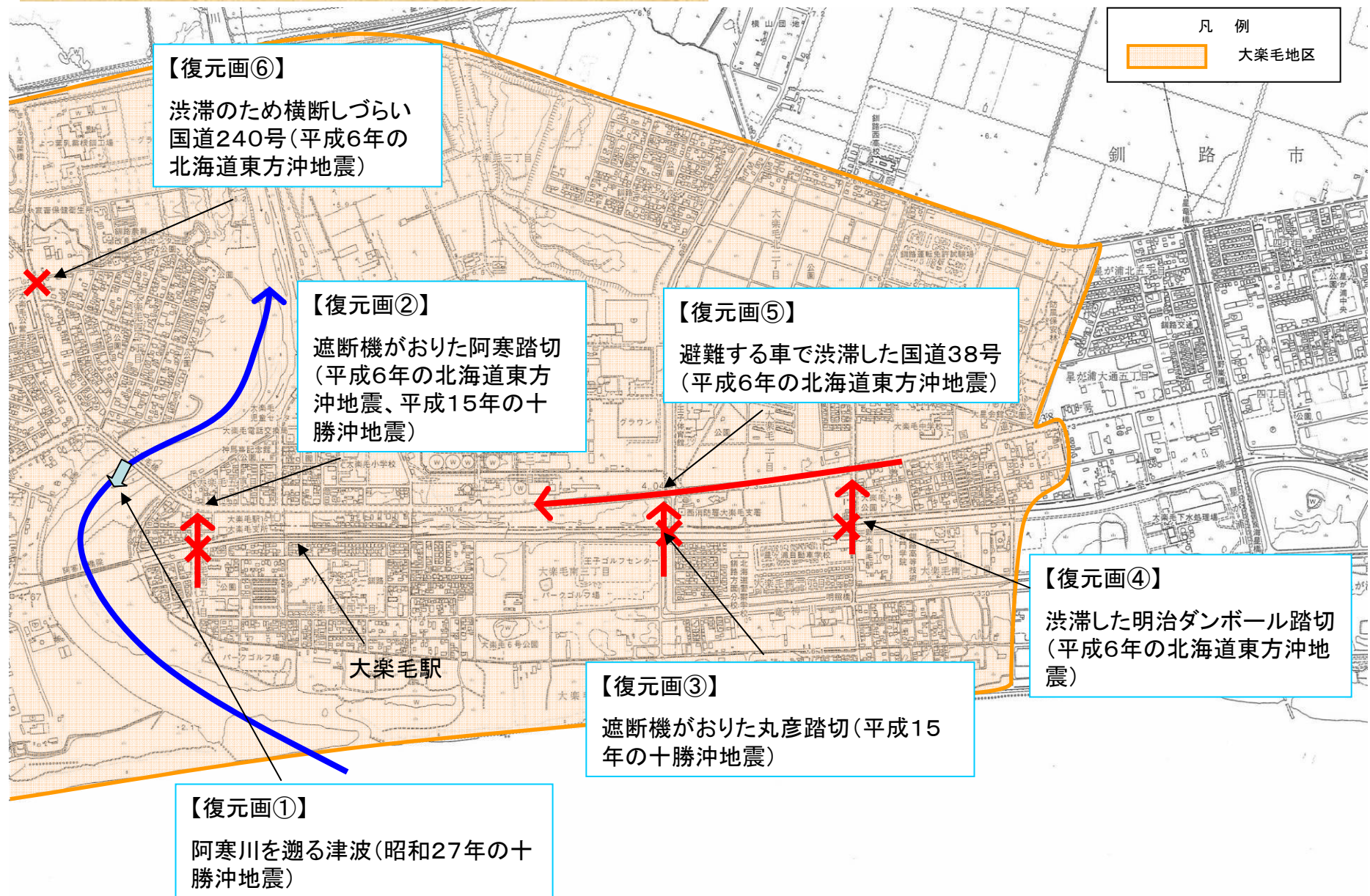
- ・平成6年10月4日 北海道東方沖地震

震度6の揺れにより、釧路市で負傷82人、住宅被害353戸。

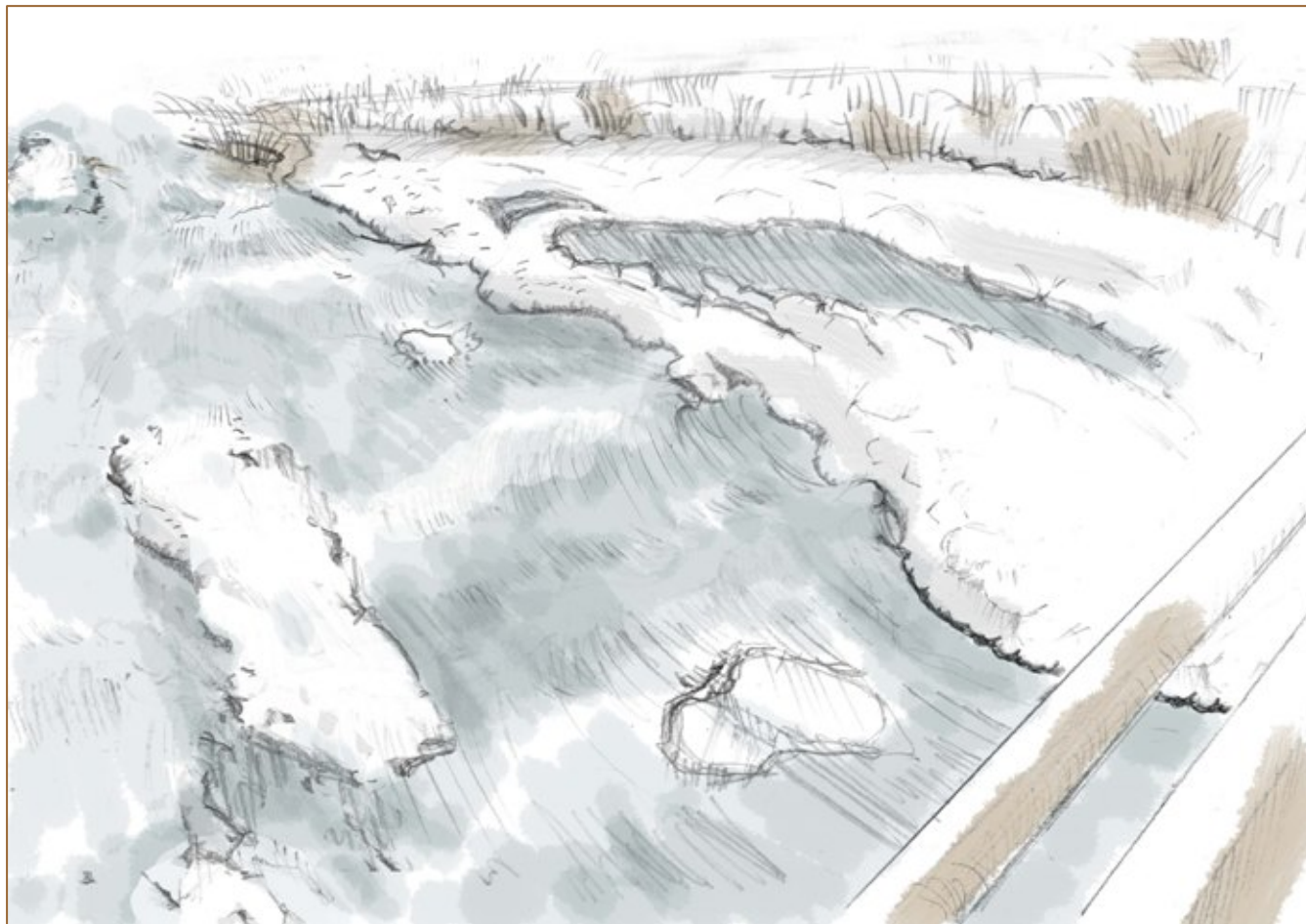
- ・平成15年9月4日 十勝沖地震

震度5強の揺れとともに、高さ1.2mの津波を釧路で観測。

＜復元画を作成した場所とその復元内容＞



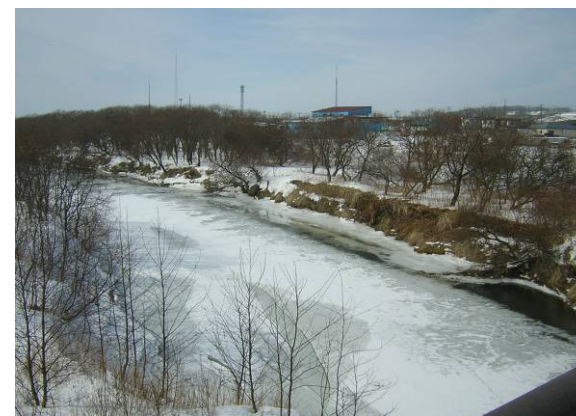
復元画① 阿寒川を遡る津波(昭和27年の十勝沖地震)



大楽毛橋から下流を見た様子

<体験談>

- ◆ 阿寒川を津波が逆流すると怖い。昭和27年の十勝沖地震の時に逆流したという話を聞いたことがある。
- ◆ 氷は張っていたと思われる。
- ◆ 当時の河口部は現状の形でなく、野原であった。周辺に家はなく、駅前だけに家屋があった。



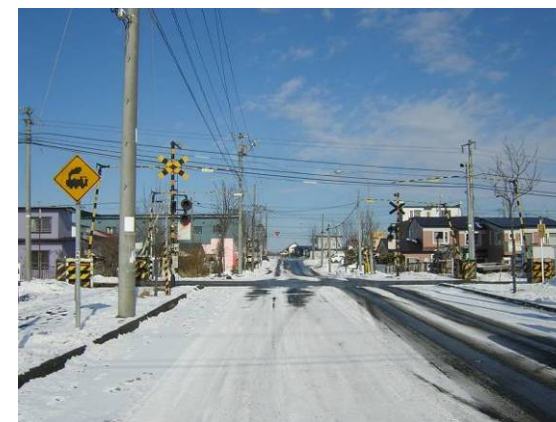
大楽毛橋から見た現在の阿寒川

復元画② 遮断機がおりた阿寒踏切(平成6年の北海道東方沖地震、平成15年の十勝沖地震)



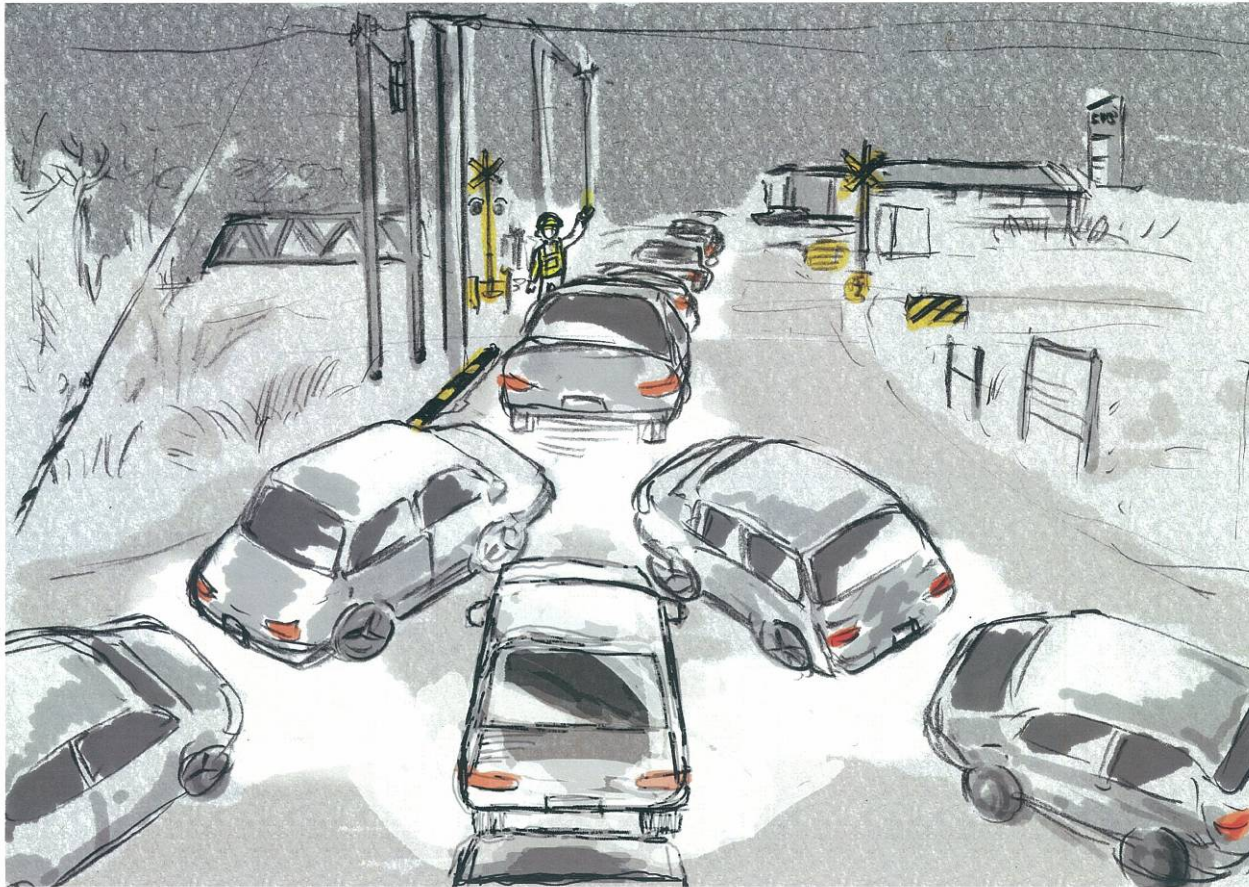
<体験談>

- ◆ 平成6年と15年の地震で、踏切が閉まった状態になり、避難したくても線路を横断できなかった。
- ◆ 車で避難した時に、閉まっている遮断機を手で上げて避難した。
- ◆ この先の国道が空港方面に避難する車で大渋滞し、前に進めなかった。
- ◆ 電車が停止すると、周辺の一連の踏み切りは閉まった状態となる。最近止まったのは二回。平成6年の地震の時は鉄橋のあたりで止まった。踏切から6mくらい進んだところ。夜の10時くらい。平成5年の時は止まっていない。
- ◆ 平成15年の時は、この地区にある3つの遮断機は全ておりた状態になった。



現在の踏切(海側から撮影)

復元画③ 遮断機がおりた丸彦踏切(平成15年の十勝沖地震)



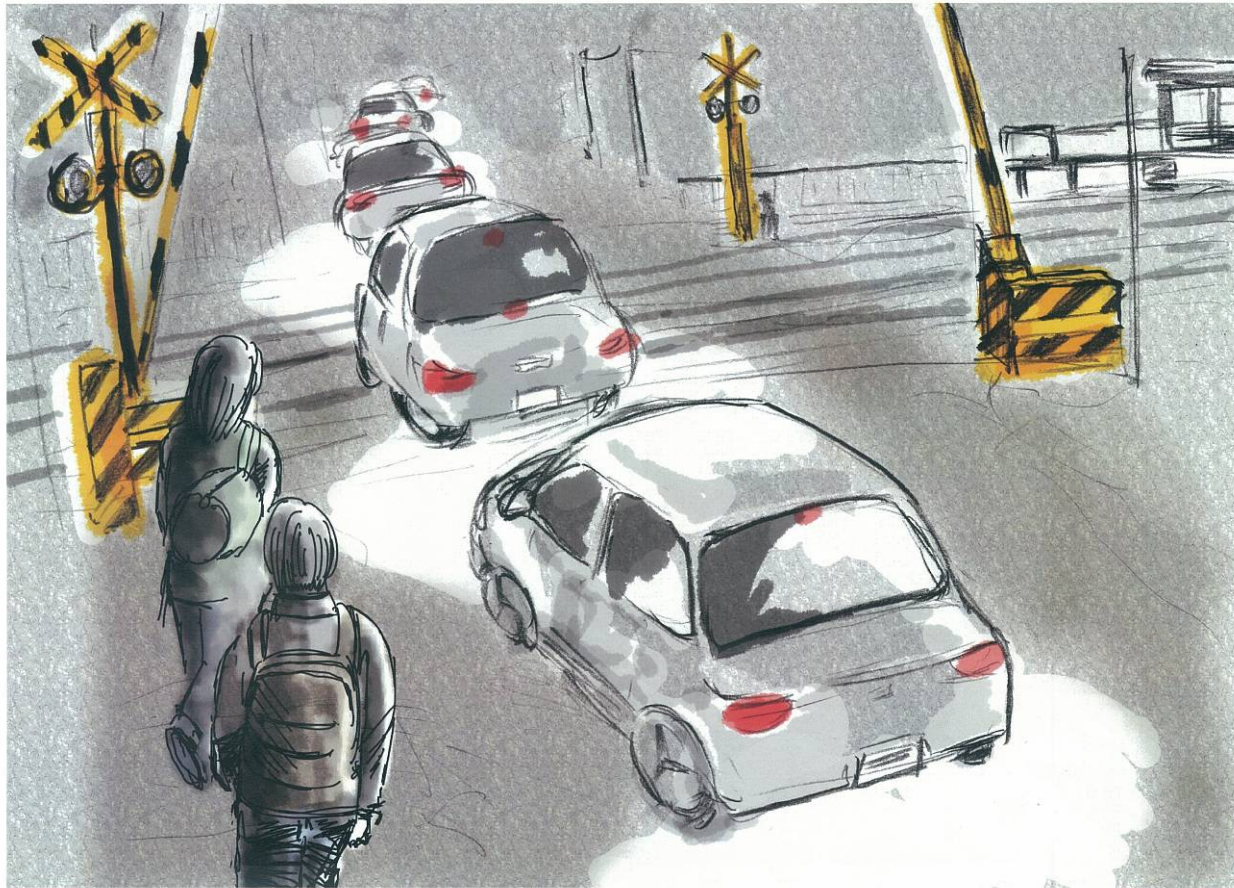
<体験談>

- ◆ 平成15年の地震で踏切が閉まった状態になり、避難したくても線路を横断できなかった。
- ◆ 平成15年の時は、ゴルフセンターの前に夜行の特急が止まった。
- ◆ この時は、JRの保線区の人が踏切のバーを抜いてくれたので通れるようになった。
- ◆ ただし、この先の国道が空港へ避難する人で大渋滞し、前へ進めなかった。
- ◆ 下の写真の左方向から合流する車が多かった。



現在の踏切(海側から撮影)

復元画④ 渋滞した明治ダンボール踏切(平成6年の北海道 東方沖地震)



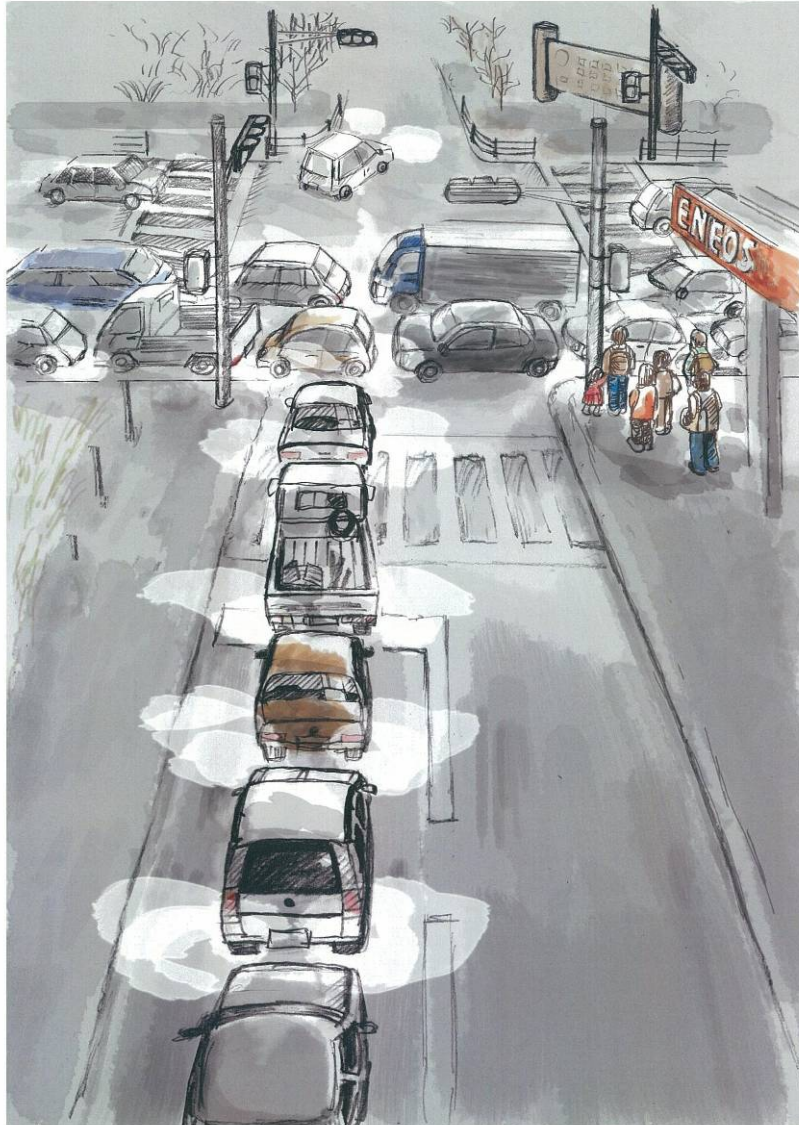
＜体験談＞

- ◆ 平成15年の地震で踏切が閉まった状態になり、避難したくても線路を横断できなかった。
- ◆ 車で避難した時に、閉まっている遮断機を手で上げて避難した。
- ◆ 平成6年の時は踏切は開いていたが、この先の国道が空港へ避難する車で大渋滞していたので先に進めなかった。



現在の踏切(海側から撮影)

復元画⑤ 避難する車で渋滞した国道38号 (平成6年の北海道東方沖地震)



<体験談>

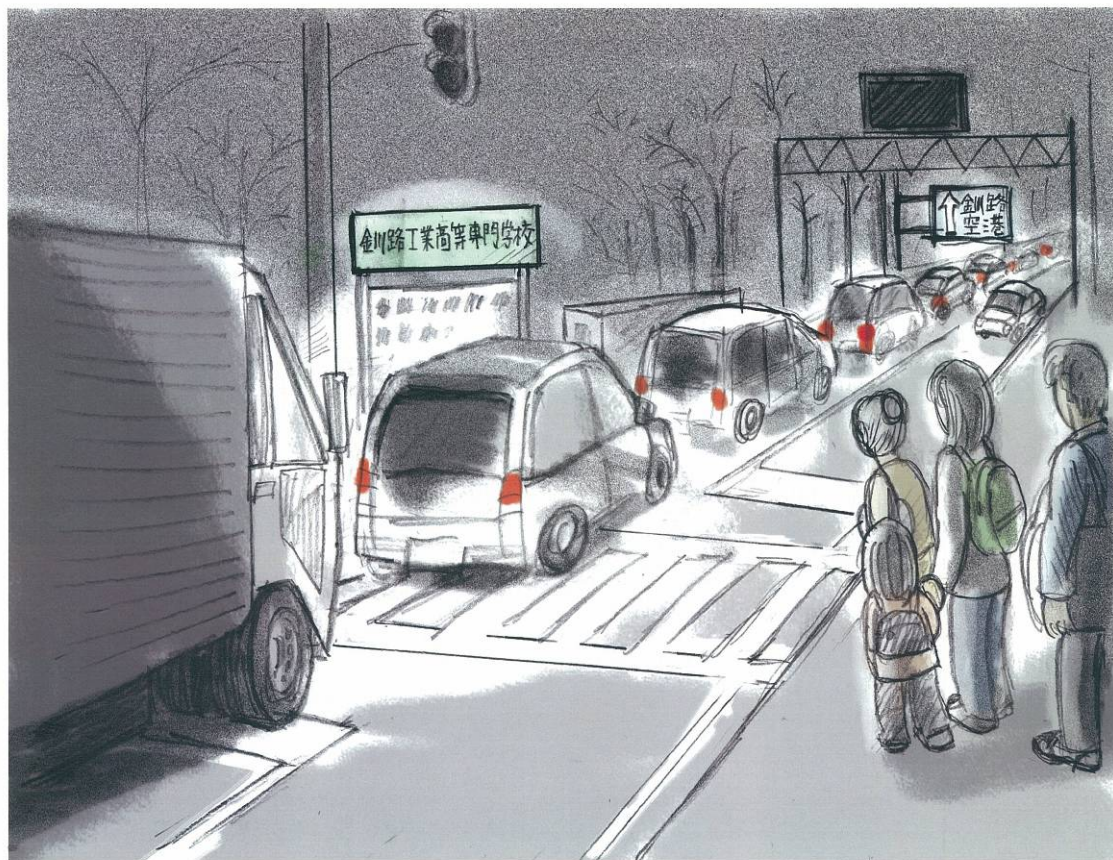
- ◆ 国道38号は空港へ避難する人の車等で大渋滞した。停電で信号が消えていたので、国道に進入することが難しく、歩いて横断することも難しかった。
- ◆ 国道に車で進入することが難しく、踏切から国道まで車が渋滞した。
- ◆ 歩いて避難する人は少なかった。
- ◆ 車は空港方向が込んでおり、反対車線はたまに車が走っている程度。交差点を左折して工場に向かう車はあった。
- ◆ 平成6年の北海道東方沖地震の時はすごい車だった。平成5年の釧路沖地震の時は全然なんともなかったが。停電にもならなかった。6年の時は1時すぎまで停電だった。
- ◆ すごいスピードというよりは、渋滞で連なっているイメージ。その間に入れない。



現在の国道(大楽毛2交差点)

海側から国道を見た様子

復元画⑥ 渋滞のため横断しづらい国道240号 (平成6年の北海道東方沖地震)



避難所前の横断歩道を渡れない様子

<体験談>

- ◆ まりも地区の避難所は、国道240号の反対側にある釧路工業高等専門学校。
- ◆ 国道240号が空港に避難する車で大渋滞すると、横断歩道を渡って避難所になかなか行けない。



現在の様子(釧路高専前)